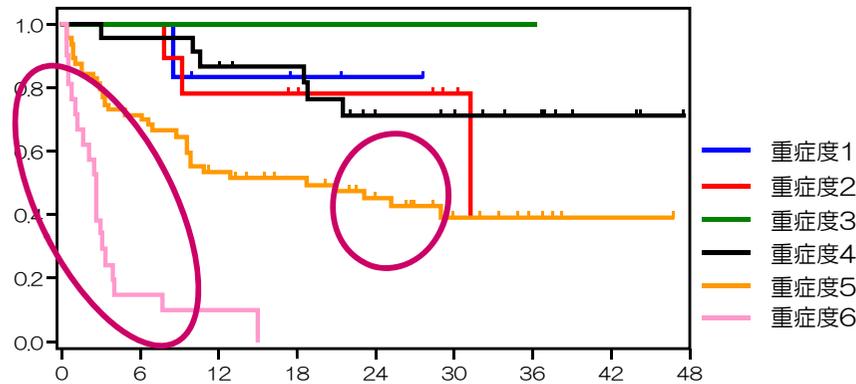


# 自己血中細胞移植治療はどのくらい効果がありますか？

## 自己血中細胞移植治療の成績（重症度別）

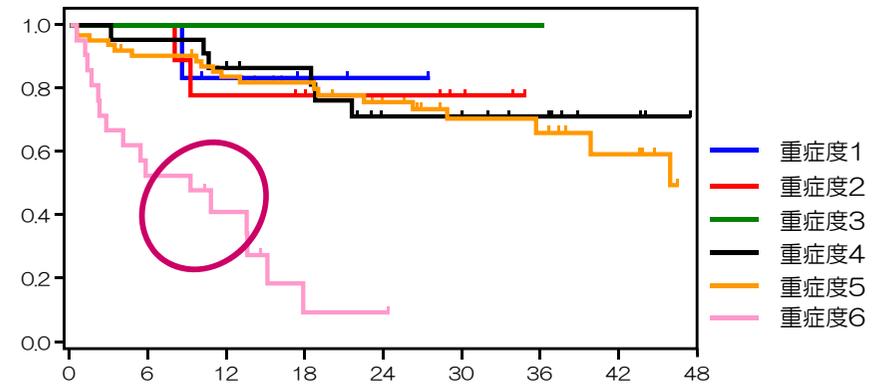
末梢血管再生治療研究会は、2001年12月1日から2006年12月31日までに下肢への自己血中細胞移植治療を受けた患者さんを対象に、治療前・治療後の検査結果などを詳しく調査しました。

（図1）重症度別の足首の関節より上を切断しなかった期間



症状が進んでいる重症度\*5や6では、切断せずに足を温存できる期間が短いことがわかりました（図1）

（図2）重症度別生存期間



足の半分以上壊疽が進んでいる重症度6では、半数の患者さんが1年以内に死亡していることがわかりました（図2）

これらの結果から、病気の症状が進んでしまった場合は、自己血中細胞移植治療を行っても期待される効果が得られない場合があります。

※重症度について  
調査ではラザフォード重症度分類が用いられました。  
数字が大きくなるほど重症度が上がります。

ラザフォード分類		フォンテイン分類	
重症度	臨床所見	重症度	臨床所見
0	無症状	I	無症状
1	軽度の跛行	II	軽度の跛行
2	中等度の跛行		中等度から重度の跛行
3	重度の跛行	III	安静時疼痛
4	安静時疼痛		安静時疼痛
5	小さな組織欠損	IV	潰瘍や壊疽
6	大きな組織欠損		潰瘍や壊疽